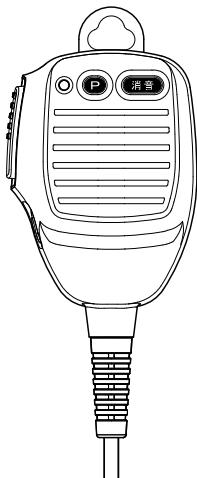


STR *STANDARD HORIZON*

車載型デジタル簡易無線機

SRM320  Bluetooth®

取扱説明書



Digital
【資格不要】

デジタル30チャンネル
3R 登録局



お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
この取扱説明書は、主に使用する基本的な操作に関しての説明が記載
されています。本機の詳細な設定に関しては、お買い上げの販売店に
ご相談ください。

この無線機は国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目次

| | |
|---|----|
| 構成品 | 1 |
| オプション | 1 |
| はじめに | 1 |
| 正しくご使用いただくために | 2 |
| 電波干渉について | 2 |
| 通信方式に関して | 2 |
| デジタル簡易無線局について | 3 |
| 購入後に初めて電源を入れた時 (Bluetooth [®] の設定) | 4 |
| 基本的な使いかた | 5 |
| ロック機能 | 6 |
| P1 キー / P2 キーにプログラムできる機能 | 7 |
| 便利な機能を使う | 10 |
| ① マルチチャンネル待受機能 | 10 |
| P1 キーにマルチチャンネル待受機能が設定されている場合 | 10 |
| マルチチャンネル待受を中止する時 | 11 |
| ② CUE (キュー) 機能 | 12 |
| P2 キーに CUE 機能が設定されている場合 | 12 |
| ③ Bluetooth ヘッドセットでハンズフリー運用をする | 13 |
| Bluetooth ヘッドセット使用時の音声スピーカーからも出す | 14 |
| ④ PA (拡声器) 機能 | 15 |
| セカンダリ PTT スイッチに PA 機能が設定されている場合 | 15 |
| ⑤ リモート PA (拡声器) 機能 | 16 |
| 他の無線機 (SRM320) の外部スピーカーから音声を出す | 16 |
| 各部の名前と機能 | 17 |
| フロントパネル | 17 |
| フルドットディスプレイ | 20 |
| リアパネル | 22 |
| 通信方式について | 23 |
| UC (ユーザーコード) 通信 | 23 |
| 個別通信 | 23 |
| 拡張機能 | 24 |
| セットメニュー | 24 |
| コールメニュー | 24 |
| 故障かな?と思う前に | 25 |
| 防塵・防水性能について | 26 |
| 定格 | 26 |
| 安全上のご注意 ～必ずお読みください～ | 27 |

構成品

| | |
|---|---|
| ◎ 無線機本体 (SRM320) | 1 |
| ◎ マイクロホン (SSM-77E、無線機本体に取り付けられています) | 1 |
| ◎ 無線機取付金具 (取付ネジ一式を含む) | 1 |
| ◎ マイクハンガー (取付ネジ一式を含む) | 1 |
| ◎ DC 電源ケーブル | 1 |
| ◎ 予備ヒューズ (5A) | 2 |
| ◎ 取扱説明書 (本書) | 1 |
| ◎ 保証書 | 1 |

オプション

| | |
|---------------------------------------|----------|
| ◎ Bluetooth ヘッドセット | SSM-BT10 |
| ◎ GPS アンテナ | SCU-38 |
| ◎ 高音質外部スピーカー | MLS-200 |
| ◎ マグネット取付金具 (外部スピーカー MLS-200 用) | SMB-203 |
| ◎ 直流安定化電源 (スピーカー内蔵) | SAS-01A |

はじめに

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。本機をご使用になる前には必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

◎ご利用にあたって

- 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB 規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易無線機（種別コード「3R」）との互換性を確保しています。ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。
- 本体底面に貼り付けてある「証明ラベル」を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

◎免責事項

- 取扱説明書に記載の使用法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。

- 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

◎アフターサービス

- 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。
- 製品に関するお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社国内営業部までお願いします。

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル
TEL：03-6711-4055

正しくご使用いただくために

- ◎ 本機に接続する外部機器類は、必ず当社純正オプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- ◎ マイクロホンのコードを強く引き伸ばしたままにしないでください。コードの断線などにより、故障の原因になります。
- ◎ 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- ◎ 電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
- ◎ 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- ◎ 通話する際は、マイクから約5センチ離して普通の声量で話してください。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル（例：“CH01”と“CH02”）でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

通信方式に関して

- ◎ 本機は、デジタル簡易無線機（登録局）として認証を取得しています。無線機の登録及び開設申請をすることでご利用いただけます。
- ◎ 登録申請および開設申請につきましてはご購入いただきました販売店、または当社国内営業部宛にお問い合わせください。
- ◎ 本機は、ARIB規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機（種別コード「3R」）との通話互換性を確保しています。
※ ARIB規格以外の機能の互換性はありません。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線局の登録局は、下表のように分類されています。

| 種別 | ARIB 種別コード | 周波数 | チャンネル数 | 使用範囲 |
|---------------|------------|--------|--------|---------------------|
| 登録局 | 3R | 351MHz | 30 | 陸上及び 日本周辺海域 |
| 登録局 (上空利用) | 3S | | 5 | 陸上及びその上空、 日本周辺海域 |

本機は種別コード「3R」の「登録局」として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成（ARIB無線設備の種別コード「3R」）

- チャンネル構成（通話チャンネル）
“CH01”～“CH30”の30チャンネルが利用可能です。
- コールチャンネル“呼出CH15”は「コールチャンネル」に設定されています。
コールチャンネルでは、ユーザーコード（23ページ参照）は自動的に“000”に設定され、秘話通信機能（8ページ参照）は自動的に解除されますので、ARIB規格で定められている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

注意

コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

補足

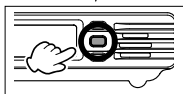
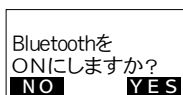
コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび秘話通信の設定をすることができません。

- 上空用チャンネルモニター（受信専用）
セットメニューの「F25 上空チャンネル」を“モニター”に設定すると、上空用チャンネルの5チャンネル（CHS1～CHS5）を受信することができます。上空用チャンネルでPTT（通話）ボタンを押しても、警告音が鳴って送信できません。
詳細はお買い上げの販売店にご相談ください。

購入後に初めて電源を入れた時 (Bluetooth® の設定)

購入後に初めて電源を入れた時は Bluetooth® の設定画面が表示されますので、Bluetooth® を使う方も使わない方も、はじめに下記の手順で設定してください。

Bluetooth® ヘッドセットを使う場合

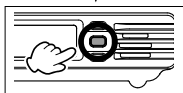


[P1] キーを押します。

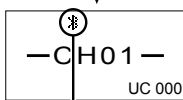
接続する Bluetooth ヘッドセットをペアリング (接続) モードにします。操作方法は、ご使用になるヘッドセットの取扱説明書をご覧ください。



接続したいヘッドセットを [UP] または [DOWN] キーで選択してください。



[P1] キーを押します。



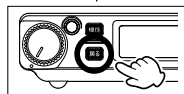
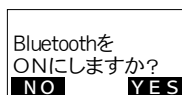
無線機とヘッドセットが接続されると点灯します。

- 次回からは、この Bluetooth 設定画面は表示されません。無線機とヘッドセットの電源を入れるだけで、自動で接続されます。
- 送信する時は話を始めると自動で送信状態になります。話を止めると受信に戻ります。

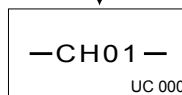
Bluetooth® ヘッドセットを使うのをやめる

1. [戻る] キーを押しながら、電源を入れます。
2. “Bluetooth を ON にしますか?” の画面が表示されますので、[戻る] (NO) キーを押します。

Bluetooth® ヘッドセットを使わない場合



[戻る] キーを押します。



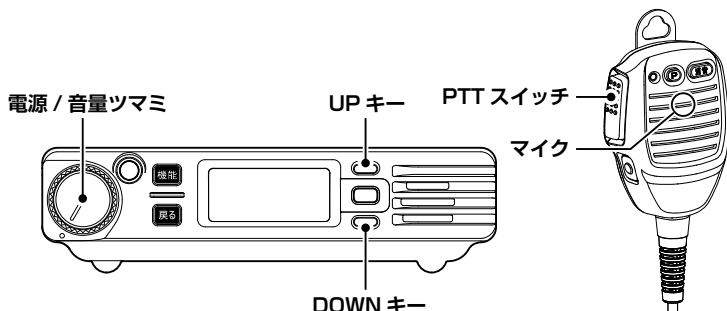
- Bluetooth® ヘッドセットを使わないで通話することができます。
- 次回からは、この Bluetooth 設定画面は表示されません。

● Bluetooth® ヘッドセットを 使えるようにする

1. [戻る] キーを押しながら、電源を入れます。
2. “Bluetooth を ON にしますか?” の画面が表示されますので、左記の “Bluetooth ヘッドセットを使う場合” 操作を行います。

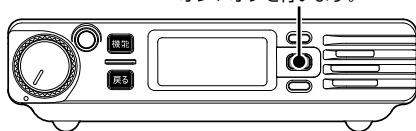
基本的な使いかた

1. 電源 / 音量ツマミを右にまわして電源を入れます。
購入後に初めて電源を入れた時は、Bluetooth® の設定画面が表示されますので、4 ページの「購入後に初めて電源を入れた時 (Bluetooth® の設定)」を参照して設定をします。
2. 電源 / 音量ツマミで相手の音声聞き取りやすい音量になるように調節します。
[UP] または [DOWN] キーを押して、通話したい相手と同じチャンネルにあわせませす。
3. PTT (通話) スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。
PTT (通話) スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。



主なキーの説明

P1 キー
あらかじめプログラムされた機能の
オン / オフを行います。



P2 キー
あらかじめプログラムされた機能の
オン / オフを行います。

PTT スイッチ
送信するときに
押します。

消音キー

押している間、受信音などの音を
消すことができます。

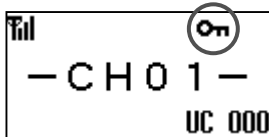
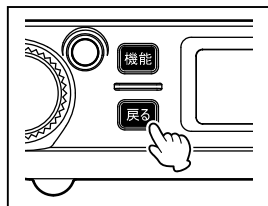
**セカンダリ PTT
スイッチ**



ロック機能

無線機本体とマイクロホンのキーをロックできます。

1. 本体の [戻る] キーを長押しします。
ディスプレイに “On” が点灯します。
ロック中にキーを押した時は “ロック中” と表示します。
- ロックを解除するには、もう一度 [戻る] キーを長押しします。
ディスプレイの “On” が消えます。



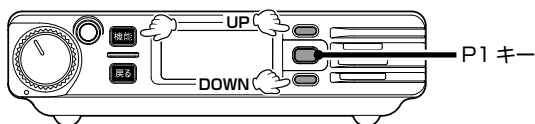
P1 キー / P2 キーにプログラムできる機能




よく使う機能を [P1] キーや [P2] キーに登録しておくことで、ワンタッチでアクセスすることができます。“短押し”と“長押し”で動作する機能が異なる場合があります。


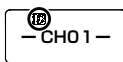
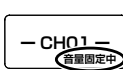


補足

機能の登録、変更方法は 9 ページの「P1 キー / P2 キーの機能を変更する」を参照してください。



| 機能 | 動作 |
|--------------|--|
| キーロック | 各キーを押しても動作しないようにするロック機能をオン/オフします。ロックを解除するときは、キーを長押しします。 ロック中は、画面に“  ”が点灯します。 |
| バックライト | ディスプレイやキーのバックライトが 消灯 → 暗い → 標準 → 明るい → …と切り替わります。 |
| 待受受信 | 短押しして、マルチチャンネル待受機能の動作をオン/オフします。 |
| 待受受信 CH 設定 | 長押しすると、現在のチャンネルを待受受信“対象” / “対象外”にします。 待受の対象チャンネルは、画面に“  ”が点灯します。 |
| 送信出力 | 送信出力が 5W (表示無し) → 2.5W (“M”表示) → 1W (“L”表示) → …と切り替わります。 |
| ミュート | 一時的に音が出ないようにするミュート (消音) 機能をオン/オフします。 ミュート機能がオンのときは、画面に“ミュート中”が点灯し、チャンネル表示が点滅します。 |
| 音声自動送信 (VOX) | 音声で自動的に送信状態になる、音声自動送信 (VOX) 機能をオン/オフします。 音声自動送信 (VOX) 機能がオンのときは、画面に“  ”が点灯します。 |
| セカンダリ PTT | 受信時に押している間、セカンダリ CH に設定したチャンネルで送信します。 PA (拡声器) 機能動作時は、押しながら話す外部スピーカーから音声を出します。 |
| 緊急 | 緊急事態をアラーム音で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して知らせます。 注意：「F28 P1 キー短」と「F30 P2 キー短」だけに設定できます。 |
| 再生 | キーを押すと、受信時自動録音機能で録音された件数が表示されます。キーを押した後に [UP] または [DOWN] キーで再生したい録音を選んでキーを押すと再生します。録音内容は電源を切ると消去されます。 |

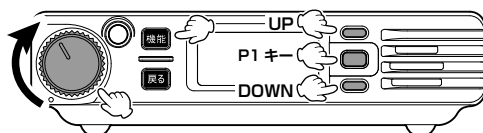
| 機能 | 動作 |
|------------|--|
| モニター | キーを押している間は、UC コードが異なる信号の音声も聞くことができます。 注意：「F28 P1 キー短」と「F30 P2 キー短」だけに設定できます。 |
| 秘話 | 32,767 通りの秘話コードが一致する無線機同士だけが通話することができる秘話機能をオン/オフします。秘話機能がオンのときは、画面に「  」が点灯します。  |
| | <p align="center">— 秘話コード (ID) の変更方法 —</p> <p>注意：他の秘話コードに変更すると通話ができなくなります。 \$01 ~ \$20 に登録する秘話コードの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。</p> <p>[機能] キーを押しながら電源を入れる → [DOWN] キーで“コールメニュー”を選ぶ → [P1] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで“秘話 ID”を選ぶ → [P1] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで秘話コードが登録された ID (\$01 ~ \$20) を選んで [P1] キーを押す → [戻る] キーを押して設定完了です</p> |
| クイックアンサー | <p>音声を発して応答できない時などに、あらかじめ録音してある「後で応答します」などのメッセージを送信します。</p> <p align="center">— メッセージの録音のしかた —</p> <p>[機能] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで“クイックアンサー”を選ぶ → [P1] キーを2回押す → PTT スイッチを押さずにマイクに向かって話す → [P1] キーを押すと録音が完了します</p> |
| 音声案内 | チャンネルを変更した時と [P1] キーを押した時に、現在のチャンネル番号を音声で読み上げます。 |
| ワンタッチ VOL | 音量ツマミをまわさずに、あらかじめ設定した音量にできます。 ワンタッチ VOL がオンのときは、画面に“音量固定中”が点灯します。  |
| リスト1 待受受信 | マルチチャンネル待受受信の対象チャンネルが登録された“リスト1”または“リスト2”を選択します。 |
| リスト2 待受受信 | |
| ライト禁止 | ディスプレイ、キーの照明および、LED インジケータの点灯をオン/オフします。 |
| 拡声器 (PA) | 電波の送信は行わず、マイクロホンの音声を外部スピーカーから出力する拡声器機能をオン/オフします。 |
| スピーカー切替 | 音を出すスピーカーが“フロントスピーカー” → “マイクスピーカー” → “フロント+マイクスピーカー”と切り替わります。 外部スピーカーを接続した時は、“フロント+外部スピーカー” → “マイク+外部” → “全て”と切り替わります。 |
| CUE | 緊急連絡や重要な要件を通知する CUE (キュー) 機能が動作し、受信側のアラーム、LED のフラッシュ、“CUE 受信”の表示で緊急の通知を行います。 |
| 宛先切替 | 個別通信時に、宛先を“一斉” → “グループ” → “個別”と切り替えます。 |
| Up/Down 切替 | チャンネルを切り替える [UP]/[DOWN] キーの動作を、一時的に ID 切替動作にします。 |

| 機能 | 動作 |
|---------------------|--------------------------------|
| CUE ミュート ON/ OFF | CUE を受信した時に鳴るアラームを ON/OFF します。 |
| 無効 | 機能なし |

P1 キー / P2 キーの機能を変更する

以下の操作で、P1 キー / P2 キーの機能を変更できます。

1. [機能] キーを押しながら電源を入れ、[P1] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“短押し”または“長押し”、どちらの機能を変更するかを下記から選択します。



P1 キーの登録を変更する場合

短押しで動作する機能を変更する場合 → F28 P1 キー短 を選択

長押しで動作する機能を変更する場合 → F29 P1 キー長 を選択

P2 キーの登録を変更する場合

短押しで動作する機能を変更する場合 → F30 P2 キー短 を選択

長押しで動作する機能を変更する場合 → F31 P2 キー長 を選択

3. [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して、新しく登録したい機能を選び、[P1] キーを押すと完了です。
5. 一度電源を入れ直してください。

便利な機能を使う

① マルチチャンネル待受機能

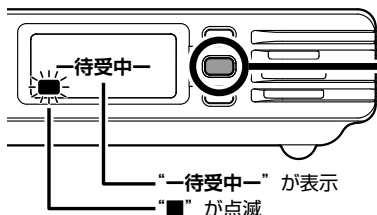
部署やグループで異なるチャンネルを使用している状態で、チャンネルを切り替えることなく部署やグループ間の通話を簡単に行うことができます。

補足

マルチチャンネル待受機能の設定に関しては、お買い上げの販売店にご相談ください。

P1 キーにマルチチャンネル待受機能が設定されている場合

1. 点灯している [P1] キーを短押すると、登録されている全てのチャンネルで信号の待受受信を始めます。



P1 キーを押す

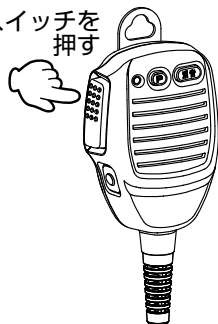
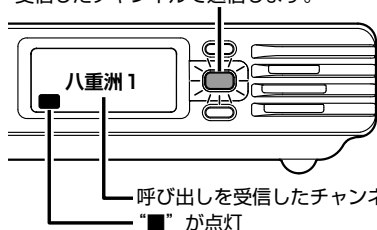
マルチチャンネル待ち受け中は、あらかじめ設定してある色で点灯します。
設定に関しては、お買い上げの販売店にご相談ください

2. 信号を受信した時は、受信したチャンネルで待受が止まり相手の話を聞くことができます。その後 [P1] キーが点滅している間にマイクロホンの PTT スイッチを押すと送信することができます。

受信中は点滅します。

受信が終了と5秒間点滅してに点灯に変わります。点滅中に PTT スイッチを押すと、設定に関係なく受信したチャンネルで送信します。

PTT スイッチを押す



[P1] キーの点滅が点灯になると再びマルチチャンネル待受動作を開始します。

マルチチャンネル待受を中止する時

待受機能が動作中に [P1] キーを押します。

[P1] キーの色が変わってマルチチャンネル待受動作を中止します。

マルチチャンネル待受機能の動作に関して

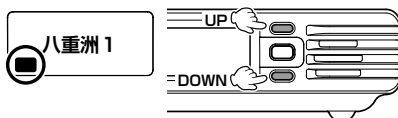
1. マルチチャンネル待受を中止した時にどのチャンネルに移動するかは、以下から設定できます（設定はお買い上げの販売店にご依頼ください）。
 - ・待受受信中に、最後に通話した時のチャンネル
 - ・待受受信を開始した時のチャンネルそれ以外のチャンネルで通信を行うときは、[UP] または [DOWN] キーでチャンネルを選びます。
2. その受信が終るまで他のチャンネルの信号を待受しません。
3. 待受機能動作中に PTT スイッチを押して送信するチャンネルは、以下から設定できます（設定はお買い上げの販売店にご依頼ください）。
 - ・待受受信を開始した時のチャンネル
 - ・最後に通話した時のチャンネル
 - ・“指定チャンネル 1” または “指定チャンネル 2” に登録してあるチャンネル

待受チャンネルの追加と解除ができます

[UP] または [DOWN] キーでチャンネルを選び、[P1] キーを長押しするたびにそのチャンネルを“待受”にするのか“待受”をしないのかが選択できます。

待受対象チャンネルは、画面左下に“■”が表示されます。

[UP] または [DOWN] キーでチャンネルを切り替えて、待受チャンネルの全てに“■”の表示があるかを確認してください。

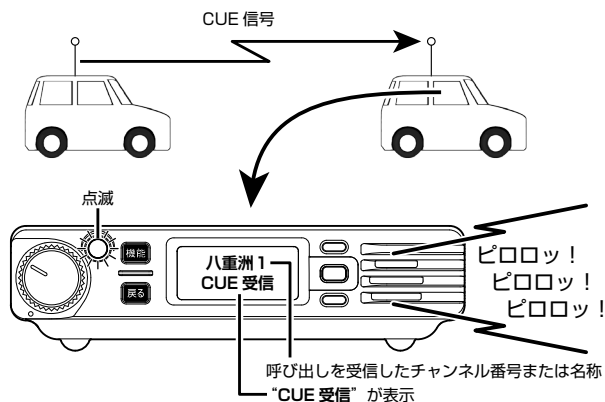


② CUE (キュー) 機能

相手の無線機のアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。この機能は受信側の音量ボリュームに関係なく、設定した音量でアラームが鳴り、同時に受信側のパネル面のLEDが点滅して、画面に“CUE 受信”を表示させます。CUEを受信した時に無線機の近くにいなかった場合でも、“CUE 受信”の表示とLEDランプの点滅が継続しますので、戻った時に緊急着信があったことがわかります。

補足

CUE機能の設定に関しては、お買い上げの販売店にご相談ください。

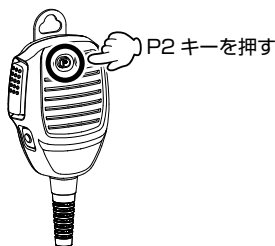


CUEを受信した後にマイクロホンのPTTスイッチを押すと、CUE（キュー）を送信した相手のチャンネルで送信します。

マルチチャンネル待受機能が動作中にCUE（キュー）を受信すると、待受動作は一時的に停止し、“CUE 受信”の表示とLEDランプが点滅します。その後PTTスイッチを押すと、CUE（キュー）を送信した相手のチャンネルで送信します。送信が終了と、再びマルチチャンネル待受動作を開始します。

P2 キーに CUE 機能が設定されている場合

マイクロホンのP2キーを短押しすると、相手の無線機に緊急を通知します。



③ Bluetooth ヘッドセットでハンズフリー運用をする

オプションの Bluetooth ヘッドセット “SSM-BT10” を使用するとハンズフリー通信が可能です。音声で自動的に送信と受信を切り替えて通話する “音声自動送信 (VOX) 機能” にも対応しています。

Bluetooth ヘッドセットを使用したハンズフリー通信を行っているときでも、無線機のマイクロホンを使用して通話することができます。

Bluetooth ヘッドセットの設定は 4 ページを参照してください。

Bluetooth ヘッドセットを使用した通話方法は、以下の方法があります。

1. 音声自動送信 (VOX) 機能

話を始めると自動で送信状態になり、話をしている間は送信状態のままです。話を止めると自動で受信状態に戻ります。

● Bluetooth ヘッドセット使用時に話をしても送信しないようにする (一時的に音声自動送信 (VOX) 機能をオン/オフする)

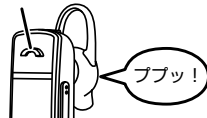
車内で同乗者と話をする時など、話をしても無線機が送信しないようにしたい時は、ヘッドセット SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを短押しします (ブツと電子音が鳴ります)。通話したいときは、無線機のマイクロホンを使用してください。もう一度マルチファンクションボタンを短押しすると (ブツと電子音が鳴ります)、再び音声で送信と受信を切り替えられるようになります。

マルチファンクションボタンを押す




声で送信しなくなります

もう一度押す



声で送信できます

声で自動的に送信できるときは、画面に “” が点灯します。



2. Bluetooth ヘッドセット “SSM-BT10” のキーで送受信を切り替える

SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを短く押すと送信状態になり、もう一度短く押すと受信状態になります。

音声自動送信（VOX）機能を使わないときは、以下の設定が必要です。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“音声自動送信（VOX）”を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“OFF”を選んで [P1] キーを押します。
4. [戻る] キーを押します。

これで、SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを押して、送信と受信を切り替えることができます。

Bluetooth ヘッドセット使用時の音声をスピーカーからも出す

Bluetooth ヘッドセットで受信した音声を、ヘッドセットと同時に無線機のスピーカーやマイクロホンのスピーカーからも出すことができます。

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して“Bluetooth”を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して“スピーカー出力”を選んで [P1] キーを押します。
4. [UP] または [DOWN] キーを押して“許可”を選んで [P1] キーを押します。
5. [戻る] キーを 2 回押すとチャンネル表示に戻ります。

現在、無線機に設定されているスピーカーからも音声が出るようになります。

音を出すスピーカーは、[P1] または [P2] キーに登録した“スピーカー切替”機能で以下から設定できます。

- ・無線機のスピーカー
- ・マイクロホンのスピーカー
- ・無線機とマイクロホンのスピーカー

④ PA (拡声器) 機能

オプションの外部スピーカー“MLS-200”を接続して拡声器として使用することができます。オプションのマグネット取付金具“SMB-203”で外部スピーカーを車両の外側にワンタッチで取り付けて、周囲への緊急連絡や避難誘導に使うことができます。

落下などの危険がありますので、マグネット取付金具で外部スピーカーを車両に取り付けたまま運転しないでください。

補足

PA (拡声器) 機能の設定に関しては、お買い上げの販売店にご相談ください。

セカンダリ PTT スイッチに PA 機能が設定されている場合

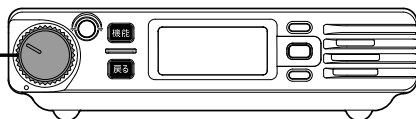
セカンダリ PTT スイッチを押しながらマイクに向かって話すと、外部スピーカーから音声が出ます。

セカンダリ
PTT スイッチを押す



係員の指示に従って
移動してください!

外部スピーカーの
音量を調節します



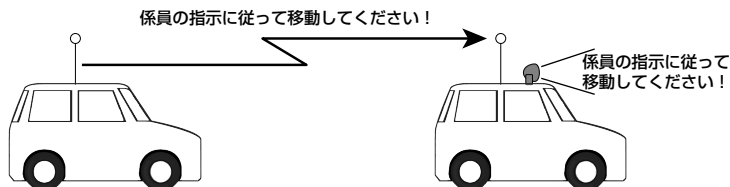
⑤ リモート PA (拡声器) 機能

他の無線機 (SRM320) の外部スピーカーから音声を出す

離れた場所にある他の無線機 (SRM320) の PA 機能を動作させて、緊急連絡や避難誘導を行えます。

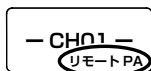
補足

リモート PA (拡声器) 機能の設定に関しては、お買い上げの販売店にご相談ください。



送信する側の設定

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “リモート PA” を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON” を選んで [P1] キーを押します。
4. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻ります。
リモート PA がオンのときは、画面に “リモート PA” が点灯します。
5. マイクホンのセカンダリ PTT スイッチを押すと送信状態になり、他の無線機の外部スピーカーから音声が出ます。



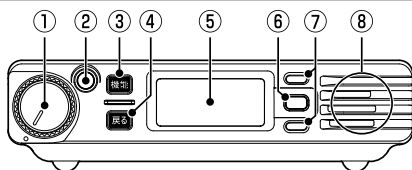
受信する側の設定

1. [機能] キーを押します。
2. [UP] または [DOWN] キーを押して “リモート PA 受信” を選んで [P1] キーを押します。
3. [UP] または [DOWN] キーを押して “ON” を選んで [P1] キーを押します。
4. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻ります。
5. リモート PA の信号を受信すると、外部スピーカーから自動的に受信した音声が出ます。

マルチチャンネル待受機能が動作中にリモート PA の信号を受信すると、待受動作は一時的に停止し、外部スピーカーから受信した音声が出ます。リモート PA の信号が無くなると、再びマルチチャンネル待受動作を開始します。

各部の名前と機能

フロントパネル



① 電源/音量ツマミ

右にまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
電源を切る時は、カチッというまで左にまわします。

② LEDインジケータ


信号受信時や送信時に点灯または点滅します。

| LEDの点灯色・状態 | 通信状態 |
|------------|--------------------------|
| 緑色・点滅 | UC（ユーザーコード）通信受信（秘話通信を除く） |
| 赤色・点灯 | 送信中（秘話通信を除く） |
| 黄色・点滅 | 個別通信受信（秘話通信を除く） |
| 黄色・点灯 | 個別通信（通話タイマー中） |
| 水色・点滅 | 秘話通信受信 |
| 青色・点灯 | 秘話通信送信 |

③ 機能キー

無線機の各種設定が行えます。

| 項目 | 機能 |
|---------|---|
| ユーザーコード | UC（ユーザーコード）通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。 |
| ライト禁止 | ディスプレイ、キーの照明および、LEDインジケータの点灯をオン/オフします。 |
| 再生 | 自動で録音された相手局の音声を再生します。 — 再生のしかた — [機能]キーを押す → [UP]または[DOWN]キーで“再生”を選ぶ → [P1]キーを押す → [UP]または[DOWN]キーで再生したい録音を選ぶ → [P1]キーを押すと再生します。録音内容は、電源を切ると消去されます。 |

| 項目 | 機能 |
|---------------------------------|---|
| クイックアンサー | クイックアンサーで送信するメッセージを、録音 / 再生 / 消去します。 <ul style="list-style-type: none"> － メッセージの録音のしかた － [機能] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで“クイックアンサー”を選ぶ → [P1] キーを2回押す → PTT スイッチを押さずにマイクに向かって話す → [P1] キーを押すと録音が完了します <ul style="list-style-type: none"> － メッセージの再生のしかた － [機能] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで“クイックアンサー”を選ぶ → [UP] または [DOWN] キーで“再生”を選ぶ → [P1] キーを押すと録音されたメッセージを再生します <ul style="list-style-type: none"> － メッセージの消去のしかた － [機能] キーを押す → [UP] または [DOWN] キーで“クイックアンサー”を選ぶ → [UP] または [DOWN] キーで“消去”を選ぶ → [P1] キーを押すとメッセージが消去されます |
| 待受受信 | 部署やグループで異なったチャンネルを使用している状態で、チャンネルを切り替えることなく部署やグループ間の通話を簡単に行うことができるマルチチャンネル待ち受け機能をオン / オフします。 |
| 待受受信 CH | 待ち受け受信“対象” / “対象外”のチャンネルを設定します。 待ち受けの対象チャンネルは、画面に「■」が点灯します。 |
| 待受受信指定 CH 1 | マルチチャンネル待ち受け受信中に、PTT スイッチを押したときに送信するチャンネルを設定します。“待受受信指定 CH1”と“待受受信指定 CH2”は、セットメニューの「F23 待受受信 PTT」の“指定 CH 1”または“指定 CH2”で選択します。 |
| 待受受信指定 CH 2 | |
| 音声自動送信 (VOX) | 音声で自動的に送信状態になる、音声自動送信 (VOX) 機能を動作させるマイクを“ハンドマイク”“外部マイク”“Bluetooth”から選択します。音声自動送信 (VOX) 機能がオンのときは、画面に  が点灯します。 |
| VOX 感度 ^{*1} | 音声自動送信 (VOX) 機能で、音声で送信状態になる感度を設定します。 |
| メイン画面 | 画面に表示される文字の大きさや内容を設定します。 標準 → 大 → 特大 → 詳細 → …と切り替わります。 |
| Bluetooth 機能 | Bluetooth 機能をオン / オフします。 |
| Bluetooth 機器検索 ^{*2} | Bluetooth ヘッドセットを検索して接続します。 |
| Bluetooth 登録機器一覧 ^{*2} | 登録されている Bluetooth ヘッドセットの一覧を表示します。一覧の中から [UP] または [DOWN] キーで接続したいヘッドセットを選んで [P1] キーを押すと接続できます。 |
| Bluetooth 登録機器削除 ^{*2} | 登録されている Bluetooth ヘッドセットを削除します。一覧の中から [UP] または [DOWN] キーで削除したいヘッドセットを選んで [P1] キーを押すと登録を削除できます。 |
| Bluetooth マイク感度 ^{*2} | Bluetooth ヘッドセットのマイク感度を調節します。 |
| Bluetooth スピーカー出力 ^{*2} | Bluetooth 運用時のスピーカーからの音声出力を“禁止”または“許可”します。 |
| Bluetooth セーブ ^{*2} | Bluetooth ヘッドセットのバッテリー消費を少なくするセーブ機能をオン / オフします。 |
| Bluetooth 初期化 ^{*2} | Bluetooth に関する設定だけを初期化します。 |
| 自局情報 | 無線機に設定されている UC (ユーザーコード)、個別 ID、グループ ID を表示します。 |
| 無線機情報 | 現在使用しているチャンネルの周波数を表示します。 |

※ 1 : 音声自動送信 (VOX) 機能が“ON”の時のみ設定できます。

※ 2 : Bluetooth 機能が“ON”の時のみ設定できます。

個別通信の時に長押しすると、個別通信に関する各種設定が行えます。
以下の機能は、個別通信時のみ設定できます。

| 項目 | 機能 |
|---------|---|
| 宛先 ID | 個別通信時に呼び出したい相手局の個別 ID を設定します。 |
| アンサーバック | 宛先 ID の相手局と通話が可能かどうかを確認するアンサーバック機能が動作します。 “応答あり” の表示：相手からの確認信号を受信した時（通話可能） “応答無し” の表示：相手からの確認信号を受信できなかった時（通話不可） |
| 着信履歴 | 呼び出してきた局の ID の履歴を 10 件まで表示します。 [UP] または [DOWN] キーで応答したい局を選んで [P1] キーを押すと、宛先 ID が自動的に呼び出してきた局の ID に設定されますので、PTT (通話) スイッチを押すだけで、呼び返すことができます。 |
| 発信履歴 | 自分が呼び出した相手の ID の履歴を 10 件まで表示します。 [UP] または [DOWN] キーで、再度呼び出したい局を選んで [P1] キーを押すと、宛先 ID が自動的に呼び出したい局の ID に設定されますので、PTT (通話) スイッチを押すだけで、呼び出すことができます。 |
| メッセージ送信 | あらかじめ登録されたメッセージ (最大 10 件) を送信します。 [UP] または [DOWN] キーで送信したいメッセージを選んで [P1] キーを押すと、メッセージが送信されます。 メッセージは、あらかじめ PC 設定ソフトでプログラムします。 |
| メッセージ確認 | 受信したメッセージの履歴を 10 件まで表示します。 [UP] または [DOWN] キーで表示したいメッセージを選んで [P1] キーを押すと、メッセージが表示されます。 |
| リモート制御 | 指定した無線機に対し、周囲の音を聞いたり、無線機を操作できないようにロックしたり、アラームを鳴らすなどのリモート制御をすることができます。 |

④ 戻るキー

- ◎各種設定を行っている時に、1つ前の画面に戻ります。
- ◎長押しすると、無線機本体とマイクロホンのキーをロックする“ロック機能”がオン/オフします。

⑤ フルドットディスプレイ

使用しているチャンネルなどの情報を表示します。
詳しくは次ページの「フルドットディスプレイ」をご覧ください。

⑥ P1 キー

よく使う機能を [P1] キーに登録しておく、ワンタッチでアクセスすることができます。“短押し”と“長押し”で動作する機能が異なる場合があります。

⑦ UP/DOWN キー

- ◎チャンネルを選択します。
- ◎各種設定を行っている時は、設定項目や設定値を選択します。

⑧ スピーカー

マイクロホンのスピーカーやリアパネルに接続した外部スピーカーからも音を出すことができます。

フルドットディスプレイ



- ← アイコン表示部
- ← チャンネル / モード表示部
- ← ユーザーコード /
- ← 個別選択呼び出しコード等表示部

| | |
|-------|--|
| | <p>受信時： 受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。 送信時： 送信出力を下記の3段階で表示します。</p> <p> : High (5W 出力) : Mid (2.5W 出力) : Low (1W 出力) </p> |
| | <p>送信出力を表示します。</p> <p>(表示なし)： High (5W 出力) M : Mid (2.5W 出力) L : Low (1W 出力)</p> |
| | 秘話通信機能がオンの時に表示します。 |
| | Bluetooth® 機能がオン (接続中) の時に表示します。 |
| | 音声自動送信 (VOX) 機能がオンの時に表示します。 |
| | メッセージ送信中 / 受信中に表示します。 |
| | GPS 機能がオンの時に、GPS 衛星を測位すると表示します。未測位時は点滅します。 |
| | セカンダリ PTT スイッチの操作が有効な時に表示します。 |
| | キーや PTT スイッチなどがロックされている時に表示します。 |
| | マルチチャンネル待受機能の対象チャンネルを選択している時に表示します。マルチチャンネル待受機能が動作中は点滅します。 |
| UC□□□ | 設定している 3 桁のユーザーコード(000 ~ 511)を表示します。 |
| 個別 | 個別通信の個別呼出に設定している時に表示します。 |
| グループ | 個別通信のグループ呼出に設定している時に表示します。 |
| 一斉 | 個別通信の一斉呼出に設定している時に表示します。 |

マイクロホン

① PTT（通話）スイッチ

押すと送信します。放すと待ち受け状態になります。

② セカンダリーPTTスイッチ

◎ 押している間、セカンダリCHに設定したチャンネルで送信します。

◎ PA（拡声器）機能が登録されている場合は、押している間は外部スピーカーから音が出ます

③ LEDインジケータ

信号受信時や送信時に点灯または点滅します。

| LEDの点灯色・状態 | 通信状態 |
|------------|-----------------|
| 緑色・点滅 | 受信 |
| 赤色・点灯 | 送信 |
| 黄色・点灯 | 個別通信（通話タイマー中） |
| 黄色・点滅 | 個別通信受信（秘話通信を除く） |

④ P2キー（P）

よく使う機能を登録しておく、ワンタッチでアクセスできます。
“短押し”と“長押し”で動作する機能が異なる場合があります

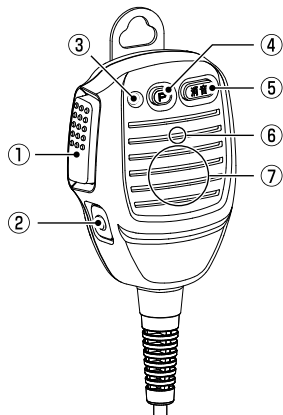
⑤ 消音キー

受信音やビーブ音をミュート（消音）することができます。

⑥ マイク

マイクと口元の間隔は5cm位が適当で、普通の大きさの声で話します。

⑦ スピーカー



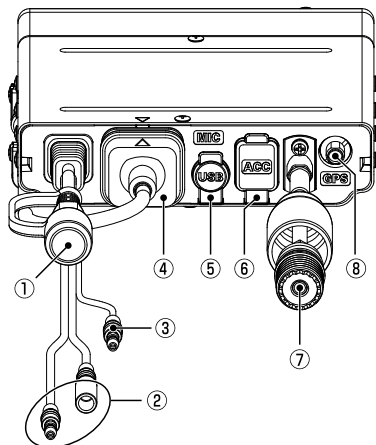
リアパネル

① 外部スピーカー端子※

3.5φモノラルミニジャックです。オプションの外部スピーカー“MLS-200”を接続します。接続した後はテープを巻くなどして必ず絶縁してください。外部スピーカー接続時は防塵防まつ性能（IP54相当）は保たれません。

② DC電源コード

付属のヒューズ付DC電源ケーブルを使って12V/24Vのバッテリーまたは、直流安定化電源に接続します。



③ イグニッション端子（黄色）

自動車のACC（アクセサリ）ラインに連動して、本機の電源を自動でオン/オフできます。

自動車のキーやエンジンスイッチがACCの位置で12Vまたは24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインに接続します。

補足

この機能を使用するには、あらかじめPC設定ソフトでのプログラムが必要です。お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

④ MIC端子

付属のマイクロホンSSM-77Eが取り付けられています。

⑤ USB端子※

パソコンと接続して無線機の設定を行う端子ですので、通常は使用しません。

⑥ アクセサリ端子（ACC）※

専用ケーブルで外部機器と接続します。

⑦ アンテナコネクタ

同軸ケーブルでアンテナを接続します（M型コネクタ）。

⑧ GPS端子

オプションの外部GPSアンテナ（SCU-38）を接続します。

※これらの端子を使用しない時は、埃や水分などが入らないようにラバーキャップをしっかりと取り付けてください。

通信方式について

本機は“UC(ユーザーコード)通信”(工場出荷時設定)と“個別通信”の二通りの通信方式に対応しています。

- ◎本機は、業務利用型のデジタル簡易無線機(デジタル通信方式)です。
- ◎本機は、ARIB規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機(種別コード「3R」)との通話互換性を確保しています。※ARIB規格以外の機能の互換性はありません。

UC(ユーザーコード)通信

同じユーザーコードに設定している局同士が通話ができます。

ユーザーコードの設定

補足

ユーザーコードを“000”に設定した無線機は、コードが一致していない他局の信号を受信できますが、ユーザーコードを“000”以外に設定している相手とは通信できません。

1. [機能]キーを押しながら電源を入れます。
2. [DOWN]キーを押して“コールメニュー”を選び、[P1]キーを押します。
3. [UP]キーを押して“CO2 UC(D)”を選び、[P1]キーを押します。
ユーザーコードの一番左の桁が点滅します。
4. [UP]または[DOWN]キーを押して数字を選択し、[P1]キーを押します。

右の桁に移ります。

5. 手順4の操作を繰り返して、3桁全て入力すると設定完了です。
6. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

マイクロホンのPTT(通話)スイッチを押して、同じチャンネルで同じUC(ユーザーコード)に設定した局と通話できます。



個別通信

個別通信では、呼び出しIDによって特定の相手局だけを呼び出すことや特定のグループ全員を呼び出す、または全ての局を一斉に呼び出すことができます。

個別通信について詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

拡張機能

[機能] キーを押しながら電源を入れると表示する拡張機能の“セットメニュー”および“コールメニュー”では無線機の各種設定、通信に関する設定ができます。拡張機能について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

セットメニュー

セットメニューでは無線機の動作を使いやすくカスタマイズできます。

| | | |
|--------------|----------------|---------------|
| F01 ディマー | F13 アンサーバック | F25 上空チャンネル |
| F02 コントラスト | F14 CH ガイダンス | F26 RX イコライザー |
| F03 ビープレベル | F15 クイックアンサー | F27 TX イコライザー |
| F04 外部マイク感度 | F16 GPS モード | F28 P1 キー 短 |
| F05 ハンドマイク感度 | F17 PTT ホールド | F29 P1 キー 長 |
| F06 キーロック | F18 ワンタッチ VOL | F30 P2 キー 短 |
| F07 緊急モード | F19 CH 空き通知 | F31 P2 キー 長 |
| F08 TX ビープ | F20 セミ VOX | F32 CUE スピーカー |
| F09 RX ビープ | F21 VOX 送信保持時間 | F33 履歴リセット |
| F10 送信出力制限 | F22 待受受信タイプ | F34 設定リセット |
| F11 弱電界アラーム | F23 待受受信 PTT | |
| F12 不在着信ベル | F24 待受受信 RX | |

コールメニュー

コールメニューでは通信に関する設定を変更できます。

| | | |
|-----------------|------------|--------------|
| C01 通信方式 (D) | C05 UCベル | C09 固定宛先 (D) |
| C02 UC (D) | C06 個別ベル | C10 緊急個別 ID |
| C03 自局 ID (D) | C07 グループベル | C11 通話タイマー |
| C04 グループ ID (D) | C08 宛先設定 | C12 秘話 ID |

故障かな?と思う前に

間違った操作をしていませんか?修理を依頼される前にお確かめください。

- ◎ 電源が入らない!
 - ・ DC 電源または、DC 電源コードのヒューズが切れていませんか?
 - ・ お車のバッテリーの電圧は正常ですか?
 - ・ 直流安定化電源が「オフ」になっていませんか?
- ◎ キー操作ができない!
 - ・ ディスプレイに“**On**”が表示されていませんか?
 - ➡ 戻るキーを長押しして、キーロックを解除してください。
- ◎ 送信できない!
 - ・ **PTT** スイッチを正しく押していますか?
 - ・ **PTT** スイッチが「ロック」されていませんか?
 - ➡ 戻るキーを長押しして、キーロックを解除してください。
 - ・ 送信出力制限の設定が「受信専用」になっていませんか?
- ◎ 音がでない!
 - ・ 消音 (ミュート) 機能が「オン」になっていませんか?
 - ➡ マイクロホンの消音キーを押して、消音 (ミュート) 機能を「オフ」にしてください。
- ◎ 通話できない!
 - ・ 相手局と同じチャンネルに設定していますか?
 - ・ 相手局との距離が離れすぎていませんか?
 - ・ 相手局と同じ通信方式に設定していますか?
 - ➡ 同じ通信方式 (UC 通信または個別通信) に設定してください。
 - ➡ 本機はデジタル通信方式の無線機です。アナログによる通話はできません。
 - ・ 相手局と同じ UC (ユーザーコード) に設定していますか?
 - ➡ 通信方式が UC 通信または個別通信、いずれの場合も相手局と同じ UC (ユーザーコード) に設定してください。
 - ・ 個別通信の場合、宛先 ID/ グループ ID がありますか?
 - ・ 秘話通信機能が動作していませんか?
 - ➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、秘話通信による通話をすることはできません。

防塵・防水性能について

本機および付属のマイクロホン（SSM-77E）は、IEC 国際規格 IP54 相当（防塵等級 5^{*1}、防水等級 4^{*2}）の防塵、防まつ性能を有しています。この性能を末永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。




- ◎ キーやボタンのラバー、各端子（マイク端子、外部スピーカー端子、USB 端子、アクセサリ端子）のラバーキャップなどに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
 - ◎ 埃などで無線機の安全性を損なわないように保護されていますが、埃などがスピーカーやマイク部分の表面に蓄積した場合、音量が小さくなったり、音質が悪くなったりすることがありますので定期的に確認、清掃することをお勧めします。
 - ◎ 海水や砂、泥などが付いた時は、ケースが損傷していないことを確認した上で、すぐに乾いたやわらかい布で拭き取ってください。汚れがひどい時は、水を含ませたやわらかい布をかたく絞って拭いてください。
 - ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
 - ◎ 本機は、水中での使用はできません。
- ※1：動作に影響を及ぼす以上の粉じんが内部に侵入しない。
※2：いかなる方向からの水の飛沫によっても有害な影響を受けない。



定格


- 送受信周波数： デジタル簡易無線 登録局（6.25kHz 間隔、30 波）
351.20000MHz ~ 351.38125MHz
上空用チャンネル（6.25kHz 間隔、5 波）
351.16875MHz ~ 351.19375MHz（モニターのみ可）
- 電波型式： F1C/F1D/F1E/F1F
変調方式： 4 値 FSK
通信方式： 単信プレストーク式
送信出力： 5W/2.5W/1W（+20%、- 50% 以内）
電源電圧： DC13.8V ± 10% または DC26.4V ± 10%
消費電流： DC13.8V
送信時 約 1.6A（出力 5 W時）
受信定格出力時 約 600mA（本体スピーカーまたはマイクスピーカー）
受信待ち受け時 約 220mA（GPS OFF）
- 受信感度： - 2dB μ V 以下（BER=1%）
低周波出力： 本体 / マイクスピーカー 2W 以上（10% 歪時）
外部スピーカー 4W 以上（10% 歪時）
- 温度範囲： - 20°C ~ +60°C
本体寸法： 約 120mm × 約 30mm × 約 120mm（幅 × 高さ × 奥行き）（突起物を含まず）
重量： 本体 約 570g、マイク 約 200g

安全上のご注意 ～必ずお読みください～






本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

-  **危険** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
-  **警告** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
-  **注意** 誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。





 行ってはならない禁止事項です (例  分解禁止)。

 必ず守っていただきたい注意事項です。








危険

-  自動車を運転しながら通話や操作をしない
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。
運転者が使用する時には、車を安全な場所に止めてからご使用ください。
-  航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”での設置および運用をしない
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。
-  引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない
発火事故や落下事故などの原因になります。
-  DC 電源コードを挟んだり、押し潰すことがないように設置する
火災・発熱・発火・断線などの原因になります。
-  通電中に無線機のフロント部分以外に触らない
本体は回路保護のために放熱しますので、通電中に無線機のフロント部分以外に触ると、やけどなどの原因になります。

警告

-  分解や改造をしない
本機は電波法に基づく無線局で使用する通信機器です。
分解や改造は違法ですのでおやめください。
また、ケガ等の事故や故障の原因になります。
-  本機は、“IP54相当”の防塵・防まつ構造になっておりますが、もし濡れた場合にはそのまま放置せず乾いた布などで拭いてください。
性能や寿命を低下させる原因になります。
-  自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない
本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。
-  指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

注意

-  指定以外のオプションを使用しない
ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。
-  強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。
-  磁気カードなどを無線機やマイクに近づけない
キャッシュカードなどの内容が消去されることがあります。
-  本機を直射日光の当たる場所 (ダッシュボード) や熱器具 (ヒーター) の近くに設置しない
変形や変色等の原因になります。
-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
-  ゴム製品、プラスチック製品を無線機本体に触れたまま放置しない
無線機は回路保護のために放熱しますので、ゴムやプラスチックが変形や変色する原因になります。
-  マイクのコードを強く引き伸ばしたままにしない
コードの変形や断線などにより、故障の原因になります。

Bluetooth® のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、八重洲無線株式会社はライセンスに基づいて使用しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

STANDARD HORIZON

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

電話：03-6711-4055

URL： <http://www.yaesu.com/jp/>



E N O O 6 U O 4 0

2008T-AC
Printed in China